

Y先生にもう一つ謝りたいことがある。ソフトテニス部に入部し、懸命に楽しくボール拾いをした私は、1年生の支部新人大会に団体戦のメンバーとして試合に出させてもらった。ところが、何度も何度もマッチポイントを握りながらも相手ペアの驚異的な粘りに屈し負けてしまった。学校まで自転車で帰る際、あの頃の私は、ふてくされて集団から遅れて行動し、学校にも遅れて到着した。人間悪いことをするときには仲間がいるもので、6人ほどが一緒に遅れた。そうしたら、Y先生に呼ばれてこっぴどく叱られた。あんなY先生を見たのは、あのときだけである。本気で叱ってくれた。今でも決して忘れない。あのことがあってから心を入れ替えて大好きな部活動の練習に臨むようになった。

1年生で試合に出してもらい調子に乗っていたのである。愚かな中学1年生である。教員になり、中学校のソフトテニス部の顧問をするようになり、あのときのY先生の気持ちが痛いほど分かるようになった。先生は情けなかったはずである。悔やんでも悔やみきれない。申し訳ないことをしてしまった。ずっと心に残っている。

教員になってから毎年Y先生に年賀状を出していた。先生は私が教員になって多少なりとも驚かれたのではないかと思う。中学生の頃は、教員になると思えるような生徒ではなかったと思う。私が海外に行ってしまう音信不通となってしまった。ずっとY先生のことは気になっていた。それが教え子のYさんのおかげで梁川にお住まいだと分かった。試しにと思ってインターネットでY先生の住所を検索してみた。すると、いとも簡単にご住所が分かってしまった。これでお宅に伺うこともできる。

もう一つY先生のこと忘れられないことがある。我々が中学2年生の12月に、郡山に日本の一流選手が来て試合をするということがあった。Y先生は自分の車に生徒4人を乗せて連れて行ってくださった。私もその4人の中の一人だった。実は、私は前日の夜に食中毒となり今まで経験したことのない症状に苦しんでいた。我が家の夕食に出てきた冷凍のエビフライが、かなり古いものだったらしく、私はやっつけられた。でも母親を責めたりはしなかった。とにかくいろいろな症状がいつべんに私を襲った。

ところが、翌朝起きてみると、意外に体が動いた。母親は心配して家にいるように勧めたが、一流選手をこの目で見られるチャンスである。私は絶対に行くと言い張った。母親も自分が出したエビフライが原因であった手前、強くは言えず折れた。

忘れられないのは、一流選手の試合よりも、福島に帰る途中、国道4号線沿いにある「レストランたかのは」で食べたカニピラフである。中学2年生だった私は「こんなにおいしいものがあるのか」と思ったものだ。とても前日に食中毒で苦しんでいたとは思えなかった。この店は今も健在である。店の前を通る度に中学時代とY先生のことを思い出している。

Y先生は男子も女子も顧問をしていた。いつだったか、何かの大会の帰りに当時の先生のご自宅にお邪魔したことがあった。男子も女子もいたので、いったい何人いたか覚えていないが、かなり的人数だったはずである。それでも先生は終始笑顔で我々の相手をしてくださったことを覚えている。私が中学校のソフトテニス部の顧問をするようになり、大会の結果も大切だが、日頃の練習態度、大会での試合態度やマナーに重きを置いているのはY先生の影響なのかもしれない。顧問をしている頃は、大会の結果よりも選手たちの態度やマナーを褒めてもらえるほうが嬉しかった。

さて、いつ頃Y先生のお宅に足を運ぶかである。先生も、まさか私が梁川高校で校長を務めるようになるとは思ってもよらなかったことだろう。とりあえず、今の3年生に卒業証書を渡してからにしようかと思う。それが校長の大切な大切な責務だから。